

# 大津・南部 の森づくり

平成24年(2012年)9月20日発行

&lt;編集・発行&gt;

滋賀県西部・南部森林整備事務所 林業振興担当

TEL 077-527-0655 FAX 077-523-1831

E-mail [dj35@pref.shiga.lg.jp](mailto:dj35@pref.shiga.lg.jp)<http://www.pref.shiga.jp/d/o-ringyo/>

## 所長着任のあいさつ

西部・南部森林整備事務所長 信田 繁治

7月から西部・南部森林整備事務所長に着任しました信田です。よろしくお願いたします。

さて、戦後、造林された人工林は、資源の成熟に伴い、利用可能な時期へと移行しつつあり、資源の循環利用を通じて持続的な森林経営を確立していくことが必要となっています。このようななか、

国においては、平成21年12月に森林・林業を再生する指針となる「森林・林業再生プラン」が策定され、平成23年度から新たな施策が実施されております。滋賀県においても、森林施業の集約化や路網整備の加速化、機械化の促進、人材の育成等の施策を展開しており、事務所といたしましても、これらの施策について、森林所有者の方々、森林組合、市町と連携しながら地域にふさわしい形で推進していきたいと考えております。

また、8月14日に発生しました豪雨災害により、大津市南部地域においては山腹崩壊等の被害が多数発生しました。今後、治山事業等による復旧に向けて事務所一丸となって取り組んでいく所存ですので、皆様のご協力をお願いいたします。



## 平成24年8月14日の大雨による森林被害について

大津市南部で8月13日夜から雨が降り始め、13日21時から14日21時までの24時間雨量は292mm/日に達し、大津市南部で午前4時半から5時半の1時間に、約90mmの豪雨があったとする「記録的短時間大雨情報」が出されました。

大津市石山外畑町では、集落直上流の溪流で土石流が発生



▲災害発生時の土砂の流出状況

して集落内を流下し、人家等に大きな被害をもたらしました。



▲上空からの土石流発生状況(内畑町)

当事務所では森林被害状況の調査を実施し、森林の荒廃箇所は158カ所、溪流の荒廃は8.3km、山腹の崩壊は17haにもものぼることがわかりました。森林から流れ出した土砂などにより、人家、国道、県道、京滋バイパス、ため池などが被害を受けています。現在は主要な道路等に流出した

土砂は撤去が完了されていますが、土石流が流下した溪流では、おびただしい量の流木が散乱、堆積し、土砂がせき止められて不安定な状態となっている場所もあり、今後の降雨により二次災害が発生する可能性もあります。

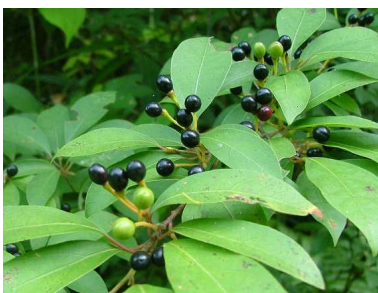
今回の森林被害は大変大きなものであるため、一度に復旧することは困難ですが、人家やライフラインとなる道路等に二次的な被害を与える危険性の高い所から優先的に、山腹工事や治山ダムなどによる対策を講じていくこととしています。

このような災害に対して、森林のもつ機能にはもちろん限界がありますが、適切に間伐等を実施して「災害に強い森林づくり」をしていくことも大切であることを再認識させられます。



▲溪流に残る流木や不安定土砂

## 木を見て森を見る…大津・南部の樹木探訪 「クロモジ」



▲クロモジ (実、葉)

滋賀県内の山を歩いていると、クロモジはクスノキ科クロモジ属の落葉の、山道のすぐ横でごく普通にみられる落葉低木です。

クスノキ科にはクスノキ、ヤブニッケイ、ニッケイ、ゲッケイジュなど芳香を持つものが多く、クロモジもその葉や樹皮に気品ある香りがあるため、古くから楊枝の材料として利用されています。樹皮の部分に香りの成分が含まれているため、楊枝の根本部分に樹皮を残して作られます。和菓子をご馳走になる際に、このような楊枝が付いていることがありますので、そのような機会があればぜひ観察してみてください。



▲クロモジの楊枝

### ～林業技術情報～

## 架線での間伐材の搬出について



架線（索道）による木材の搬出は主伐の減少とともに行われなくなってきましたが、近年、地形や土質条件で作業道作設が適さない場所でも材の搬出が可能な技術として、再び注目されています。

架線での集材は、山を荒らすことが少ない、伐採木を上空へ吊り上げるため残存木への傷付きが少ないなど、利点があります。反面、仮設撤去にコストがかかるほか、特殊な機械や技能が必要であり、そもそも「道」という財産が残りません。

このため現場全体で、作業道と架線を組み合わせた有利な作業システムを検討する必要があります。

当事務所でも、架線を作業の重要な選択肢と考えており、架線系搬出間伐技術の普及を図るための研修会を平成24年5月に実施しました。「古くて新しい技術」である架線を適切に取り入れて、森林整備を推進していきたいと思えます。



▲架線での搬出状況



▲土場側（集材機とプロセッサ）